

6. ロシア連邦国家会議議員選挙結果の分析（1）：1993～99年

6.1. 1993年12月12日の国家会議議員選挙の結果

選挙人数は、表1に見るように、少しずつ増加している。投票率（選挙人数に対する投票参加者数の比率）はばらつきがある。

1993年12月12日は、ロシア連邦憲法についての国民投票および連邦会議（上院）の選挙と同時に実施されたが、①議会選挙の実施が公示されたのが、そのわずか3ヵ月前の9月21日のことであったために、政府も各党派も準備不足であり、国民の選挙に対する認識のレベルも高くなかったこと、②一部の非ロシア人地域（共和国）において憲法草案に対する不満が強かったこと、③いわゆる「十月事件」直後の実施であったため、一部の国民がそうしたエリツィン大統領の強行措置に抗議する意味を込めて投票をボイコットしたこと、などの理由により低投票率となったと推測できる。

他方、2003年12月7日が低投票率であった理由は、与党「統一ロシア」圧勝の事前予想があった上に、政治的無関心層の増大傾向があるにもかかわらず、投票の呼びかけが低調だったという理由が推測できる。

連邦選挙区と単独議席選挙区の選挙団体別議席数の最終結果は表2のとおりである。

単独議席選挙区では、219選挙区で選挙が成立したが、6選挙区では再選挙となった。6選挙区のうち5選挙区はタタルスタン共和国で、投票率25%以下であったためである（国家会議議員選挙規程第39条による）。残りの1選挙区は登録候補者なしであったチェチニア共和国である。

連邦選挙区と単独議席選挙区を合わせた国家会議全体の選挙団体別構成について論ずるのは、立候補者名簿に記載された選挙団体名に基づく場合と、当選者名簿に記載された所属党派名に基づく場合で微妙に異なっており、さらに、議会の開会後に結成された院内会派はそれらのものとはさらに異なるため、若干複雑である。

いずれにせよ、表2のとおり、当選者名簿では、単独議席選挙区において、「選挙人による指名」議員すなわち無所属議員が非常に多いために、彼らが最終的にどの院内会派ないし議員グループに属するかが明らかにならなければ、国家会議の全体的な政治地図は明確にはならない。なお、院内会派とは連邦選挙区で議席を獲得した選挙団体を中心に結成されるものであり、他方、議員グループは無所属議員等が中心になって国家会議開催後に結成されるものである。1994年1月11日に開会した国家会議では、さっそく院内会派および議員グループが結成され、国家会議議長、副議長、常任委員会議長等の人選は、院内会派どうしの話し合いにより進められた。しかしながら、公式の院内会派別議員名簿は公表されず、院内会派別議席数に関する非公式の情報もたらされただけであ

表1 ロシア連邦国家会議議員選挙の選挙人数と投票率（%）

投票日	投票の種類	選挙人数	投票率
1993年12月12日	第1期国家会議議員選挙	106,170,835	54.81
1995年12月17日	第2期国家会議議員選挙	107,496,558	64.38
1999年12月19日	第3期国家会議議員選挙	108,072,348	61.85
2003年12月7日	第4期国家会議議員選挙	108,906,250	55.75
2007年12月2日	第5期国家会議議員選挙	109,145,517	63.78
2011年12月4日	第6期国家会議議員選挙	109,273,780	60.19

注：1993年12月12日はロシア連邦憲法についての国民投票および連邦会議（上院）選挙も同時に実施されたが、投票が実施されなかった北オセチア、タルスタン、トゥィヴァ、チェチェノ・イングーシェチア（当時）各共和国の一部地域の選挙人が含まれていない。

出典：Бюллетень Центральной избирательной комиссии, (以下、たんに Бюллетень ЦИК とする) 1994, No. 1, c. 38.; Вестник Центральной избирательной комиссии, (以下、たんに Вестник ЦИК とする) 1996, No. 1, c. 48.; 1999, No. 23, c. 96-98.; 2004, No. 53, c. 15-16.; 2007, No. 19, c. 5-6.; 2011, No. 21, c. 3-4.

表2 1993年12月12日国家会議議員選挙選挙団体別結果

選挙団体・選挙ブロック名	連邦選挙区 得票数	%	連邦選挙区 議員数	単独議席 選挙区議員数	合計	%
ロシア自由民主党	12,318,562	22.92	59	5	64	14.22
民族派合計	12,318,562	22.92	59	5	64	14.22
ヤプリンスキー=ポルドゥイレフ=ルキニン=ブロック	4,223,219	7.86	20	7	27	6.00
ロシアの選択	8,339,345	15.51	40	24	64	14.22
ロシアの統一と合意党	3,620,035	6.73	18	4	22	4.89
ロシア民主改革運動	2,191,505	4.08		5	5	1.11
経済自由党				2	2	0.44
右派合計	18,374,104	34.18	78	42	120	26.67
ロシアの未来—新しい名前	672,283	1.25		2	2	0.44
安定、公正、進歩のための市民同盟	1,038,193	1.93		10	10	2.22
ロシア民主党	2,969,533	5.52	14		14	3.11
尊厳と慈悲	375,431	0.70		3	3	0.67
ロシア建設的環境運動「ケードル」	406,789	0.76		1	1	
政治運動「ロシアの女性」	4,369,918	8.13	21	2	23	5.11
中道派合計	9,832,147	18.29	35	18	53	11.78
ロシア農業党	4,292,518	7.99	21	16	37	8.22
ロシア連邦共産党	6,666,402	12.40	32	10	42	9.33
左派合計	10,958,920	20.39	53	26	79	17.56
すべての候補者名簿に反対	2,267,963	4.22				
選挙人による指名				125	125	27.78
その他の選挙団体				9	9	2.00
有効投票総数	53,751,696	100				
選出議員総数			225	225	450	100

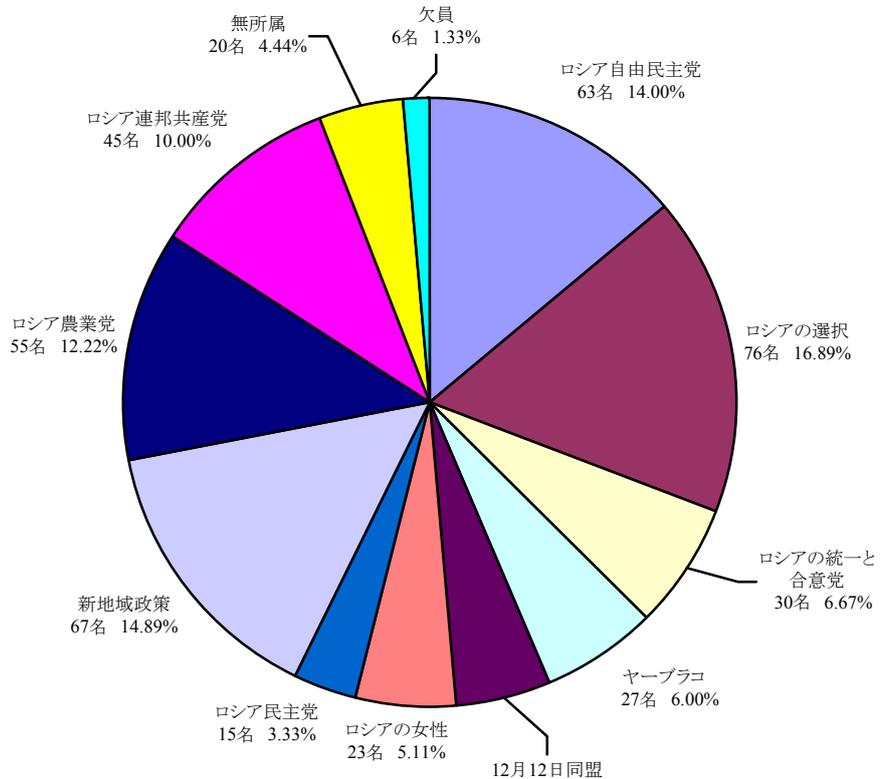
注：「民族派」、「右派」などの政治的傾向は、6.2に説明した方法による分類である。なお、無効投票の数は公表されていないので、各選挙団体の得票率は有効投票総数を基準に算出した。

出典：連邦選挙区については Бюллетень ЦИК, 1994, No.1, c. 67.; 単独議席区については, Федеральное собрание первого созыва. Издание шестое. М., «Панорама», 1996, c. 113.

た。しかも、各院内会派および議員グループの所属議員数は、時間の経過とともに変動し、また新たな議員グループが結成されたりもする、きわめて流動的なものである。1994年1月の国家会議開催直後の院内会派および議員グループ別の議席配分は図1のとおりである。

図1におけるように、国家会議における左派の議席占有率は、23%程度であったが、右派の「ヤプリンスキー・ボルドゥィレフ・ルキーン」ブロックや中道派が野党的態度をとることが多く、エリツィン政権は、議会運営に苦慮することとなった。

図1 1994～95年国家会議会派構成



注：「ヤーブラコ」は、1993年においては「ヤプリンスキー・ボルドゥィレフ・ルキーン・ブロック」であったが、便宜上、1995年以降の会派名である「ヤーブラコ」とした。

出典：Аргументы и факты, 1994, No. 4, c. 2.

6.2. 1995年12月17日の国家会議議員選挙の結果

6.2.1. 投票率

1995年12月17日の投票率は、表1に示すように、1993年12月12日の投票率よりも10%近く高い64.38%であった。この投票率の上昇の理由としては、①1993年12月12日選出の議会の任期が2年と定められていた以上、1995年12月17日の選挙実施は2年前から決まっていたことであり、政府や政党は、1993年12月12日のときと比べて、選挙の準備や宣伝のために十分な時間をかけることができたこと、②2年間の議会の活動が、それなりに生産的なものであったことが議会選挙に対する国民の認識の高まりに貢献したこと、などが推測できる。

6.2.2. 政治的傾向別得票率

選挙民の政治的傾向を知るためには、連邦選挙区の選挙団体別得票率を見ることが最も簡単な方法であるが、1995年12月17日の国家会議議員選挙の連邦区には43もの選挙団体が選挙に参加したために、選挙団体別得票率を一見しただけでは、選挙民全体の政治的傾向がわかりにくい。また、1993年12月12日の国家会議議員選挙との比較を行う場合にも、1993年12月12日の選挙に参加した13の選挙団体と、1995年12月の選挙に参加した43の選挙団体には、大きな異同があり、選挙団体別得票率の比較はできない。

そこで、選挙団体を、①民族派、②右派（いわゆる「改革派」あるいは「民主派」）、③中道派、④左派、という4つの傾向に、あるいはそれらを組み合わせて3ないし2つの傾向に分類して比較するということになる。しかし、この方法は、ある選挙団体をどの類型に含めるかという点について主観が入り込むことになり、若干の問題がないわけではない。たとえば、「我らが家—ロシア」を、「右派」に分類するのか、それとも「中道派」に分類するかは、同派の得票数からしても重要であるが、これについて意見が分かれている。

例えば、ニコライ・ペトロフは、「我らが家—ロシア」を、「民主派」、「中道派」、「共産・民族派」の3類型のうちの「中道派」に分類しているが¹、マイケル・マクフォールは、「改革派」、「中道派」、「反対派」の3類型のうちの「改革派」に分類している²。また、グリゴリー・マルチェンコは、「社会（Социал）改革派」、「自由（Либерал）改革派」、「共産派」、「国家（государственный）派」の4類型のうちの「自由改革派」に分類しており³、他方、ジェリー・ハフらは、「左翼」、「ナショナリスト」、「右翼（改革派）」、「中道派」の4類型のうちの「右派（改革派）」に分類している⁴。

分類の基準については、例えばマルチェンコは、「①選挙民から見た選挙団体および（もしくは）その指導者の類似性の表現としての選挙区別得票分布の近似性、②選挙団体とその指導者の特徴」によって分類している⁵。マクフォールは、「モスクワの政党指導者や西側の研究者は『ロシアの民主的選択』と『ヤーブラコ』とを区別しているようだが、・・・選挙民は改革の支持者と反対者という2種類の候補者しか見えていない」と指摘し、選挙民の認識を重視している⁶。ハフらは、経済改革に関連する政府の個々の政策およ

¹ Петров Н. В., Анализ результатов выборов 1995г. в Государственную думу России по округам и регионам. «Парламентские выборы 1995 года в России». М., 1996, с. 12.

² McFaul, M., *Russia between elections: What the December 1995 results really mean* (Washington, D. C.: Carnegie Endowment for International Peace, 1996), p. 2.

³ Марченко Г. В., Россия между выборами (Социологический анализ и прогноз состояния электората). «ЛЮДИС», 1996, No. 2, с. 102-103.

⁴ Hough, J., E. Davidheiser & S. G. Lehmann, *The 1996 Russian Presidential Election* (Washington, D. C.: Brookings Institution Press, 1996), p. 53.

⁵ Марченко, указ., с. 101.

⁶ McFaul, op. cit., p. 7.

びその他の内政問題に対して各選挙団体の支持者がどのような態度を持っているかを調べた世論調査に基づいて、各選挙団体の分類を行っている⁷。また、ペトロフは、各選挙団体の地域別支持率、また地域のロシア人の比率、都市人口、教育水準、60歳以上の人口比などをもとに相関分析を行って、各選挙団体相互の近似性・異質性を数値化している⁸。それによると、「我らが家-ロシア」は、州地域において、「ヤーブラコ」との相関係数0.60、「ロシアの民主的選択」とが0.62となっており、また、「ヤーブラコ」と「ロシアの民主的選択」との相関係数は0.64である。相関係数は、完全一致を示す1から、あらゆる点でまったく類似性のないマイナス1まであり、例えば、現在の「ヤーブラコ」と1993年の「ヤプリンスキー=ボルドゥイレフ=ルキーン・ブロック」との相関係数は0.71であることからして、互いに0.60前後の相関係数を持つ、「我らが家-ロシア」、「ヤーブラコ」、「ロシアの民主的選択」は、相互にかなりの近似性があると考えられる。ちなみに、ロシア連邦共産党は、州地域において、ロシア自由民主党との相関係数が0.50となっていて、やはり両者はかなりの近似性を示しているが、他方で、「我らが家-ロシア」とはマイナス0.02、「ヤーブラコ」とはマイナス0.13、「ロシアの民主的選択」ともマイナス0.14となっていて、これらの選挙団体とは、かなり異質であることがわかる。

「我らが家-ロシア」の指導者や議員は「中道派」を自称している場合が多いとはいえ、市場経済へ向けて改革を推進している現政府の首相をリーダーとし、「政権党」ないし「与党」と見なされていた以上、「我らが家-ロシア」を「右派」に分類すべきである

と考える。また、マクフォールの言う「改革派」か「反対派」かしかないという議論、マルチェンコの分類、またペトロフの相関分析も、本人の分類とは異なるが、結果的には、「我らが家-ロシア」を「右派」と分類する立場を支持しているように思われる。他方、「左派」と「民族派」は、イデオロギー的には異なる部分もあり、彼ら自身は互いを峻別しているが、マクフォールの言うように、選挙民は彼らを全体として政権に対する「反対派」として認識していることから、分析の場合には、「左派・民族派」として一括して考えることも可能であろう。あとで見るように、1993年の選挙においてロシア自由民主党が勝利を収めた地域の多くが1995年選挙ではロシア連邦共産党によって代わられたことは、多くの選挙民にとって、彼らがともに「反対派」の役割を持つと認識されているからであると考えれば理解できる現象なのである。かくして、ここでは、前述の研究者の分類を参考に、各種世論調査や各選挙団体の主張なども考慮し、各選挙団体を、「民族派」、「右派」、「

表3 1995年12月17日国家会議議員選挙選挙団体別結果

選挙団体・選挙ブロック名	連邦選挙区 得票数	%	連邦選挙区 議員数	単独議席 選挙区議員数	合計	%
我が祖国	496,276	0.72		1	1	0.22
スタニスラフ・ゴヴォルヒン・ブロック	688,496	0.99		1	1	0.22
社会政治運動「ロシア人共同体会議」	2,980,137	4.31		5	5	1.11
ロシア自由民主党（JDPP）	7,737,431	11.18	50	1	51	11.33
その他の民族派	612,376	0.88				
民族派合計	12,514,716	18.08	50	8	58	12.89
有権者の無党派政治運動「協同事業」	472,615	0.68		1	1	0.22
無所属ブロック	83,742	0.12		1	1	0.22
全ロシア社会政治運動「我らが家-ロシア」	7,009,291	10.13	45	10	55	12.22
バムフィーロワ=グーロフ=ウラジーミル・ リュセンコ（ロシア連邦共和国）	1,106,812	1.60		2	2	0.44
社会団体「ヤーブラコ」	4,767,384	6.89	31	14	45	10.00
社会政治運動「進め、ロシア！」	1,343,428	1.94		3	3	0.67
「89」（ロシア89地域）	40,840	0.06		1	1	0.22
ロシアの民主的選択-統一民主派	2,674,084	3.86		9	9	2.00
ロシアの統一と合意党	245,977	0.36		1	1	0.22
経済自由党	88,416	0.13		1	1	0.22
その他の右派	703,121	1.02				
右派合計	18,535,710	26.78	76	43	119	26.44
政治運動「ロシアの女性」	3,188,813	4.61		3	3	0.67
祖国一新	339,654	0.49		1	1	0.22
ロシアの労働組合と企業主-労働同盟	1,076,072	1.55		1	1	0.22
勤労者自治党	2,756,954	3.98		1	1	0.22
イワン・リュブキン・ブロック	769,259	1.11		3	3	0.67
その他の中道派	2,707,269	3.92				
中道派合計	10,838,021	15.66		9	9	2.00
ロシア連邦共産党	15,432,963	22.30	99	58	157	34.89
権力を国民に！	1,112,873	1.61		9	9	2.00
共産主義者=労働ロシア=ソ連邦支持者	3,137,406	4.53		1	1	0.22
ロシア農業党	2,613,127	3.78		20	20	4.44
その他の左派	1,781,233	2.57				
左派合計	24,077,602	34.79	99	88	187	41.56
選挙人による指名				77	77	17.11
すべての候補者名簿に反対	1,918,151	2.77				
有効投票総数	67,884,200	98.09				
無効投票	1,320,619	1.91				
投票総数	69,204,819	100				
選出議員総数			225	225	450	100

注：各選挙団体の得票率は投票総数を基準に算出した。

出典：連邦区については、*Вестник ЦИК*, 1996, No.1, с. 49-51.; 単独議席区については、*Выборы депутатов Государственной думы 1995: Электоральная статистика*, М., 1996, с. 154.

⁷ Hough et al., op. cit., p. 39-52.

⁸ Петров, указ., с. 25-30.

中道派]、「左派」という4類型に分類して、1995年の国家会議議員選挙の連邦選挙区の選挙団体別結果を表3で示した。

1993年の国家会議議員選挙の選挙団体別得票数(表2)と比較すると、以下のことが明らかになる。

①1993年の「与党」であった「ロシアの民主的選択」と、地方指導者を糾合するものとされていたシャフライ元政府副議長率いる「ロシアの統一と合意党」は連邦選挙区では壊滅し、その犠牲の上に、新「与党」である「我が家ーロシア」が議席を獲得した。「我が家ーロシア」は、「与党」というコンセプトも、「地方指導者の糾合」というコンセプトも、ともに標榜していたので、「ロシアの民主的選択」と「ロシアの統一と合意党」双方の票を奪ったと考えられる。しかし、両選挙団体の得票率の落ち込みをすべてはカバーしきれず、右派全体で、わずかに得票数を増やしたものの、得票率をかなり減らした。

②中道派は、全体として得票数をわずかに増やしたものの、票が分散したこともあって、連邦選挙区ではいずれの選挙団体も議席をとれず、壊滅した。

③1995年におけるロシア連邦共産党の連邦選挙区得票率の増加は、ロシア自由民主党とロシア農業党の減少によってかなり相殺されている。ロシア連邦共産党は、「敵」からではなく、「味方」からより多くの票を奪ったのである。しかし、左派全体としては、ロシア連邦共産党と新しい共産派の選挙団体が、1993年の中道派票や1993年に棄権した選挙民の票をかなり上積みしたため、かなり得票数を伸ばした。

④全体として多党化した。

6.2.3. 1995年国家会議単独議席選挙区の結果⁹

単独議席選挙区では、ロシア連邦共産党が58名という最多当選者を出し、1993年の16名を大幅に増やした。地域的に見ると、ロシア連邦共産党は、黒土地帯、北カフカス、ヴォルガ川流域、中央ロシア、南シベリア、極東から多くの当選者を出した。

連邦選挙区では失敗したロシア農業党も、単独議席選挙区では20名の当選者を出した。ロシア農業党は、1993年選挙では単独議席選挙区から12名の当選者を出したただけであったので、1995年の単独議席選挙区では支持者をかなり増やした。

「ヤーブラコ」は単独議席選挙区で14名の当選者を出した。うち5名をサンクト・ペテルブルク市から、2名をモスクワ市から、カムチャカ州、モスクワ州、ニジェゴロド州、オレンブルグ州、ロストフ州、スヴェルドロフスク州、ヤロスラヴリ州から各1名を当選させた。

「我が家ーロシア」は10名の当選者を単独議席選挙区から出したが、そのうちサマラ州とニジェゴロド州から各2名ずつ、あとはカバルジノ・バルカリア共和国、タタルスタン共和国、トゥィヴァ共和国、イルクーツク州、ムルマンスク州、ウスチ・オルダ・ブィャーチア自治管区から各1名となっている。

ロシア自由民主党は、184名という最も多くの候補者を単独議席選挙区で立てたが、わずかに1名をノヴォシビルスク州第127選挙区から当選させたにとどまった。

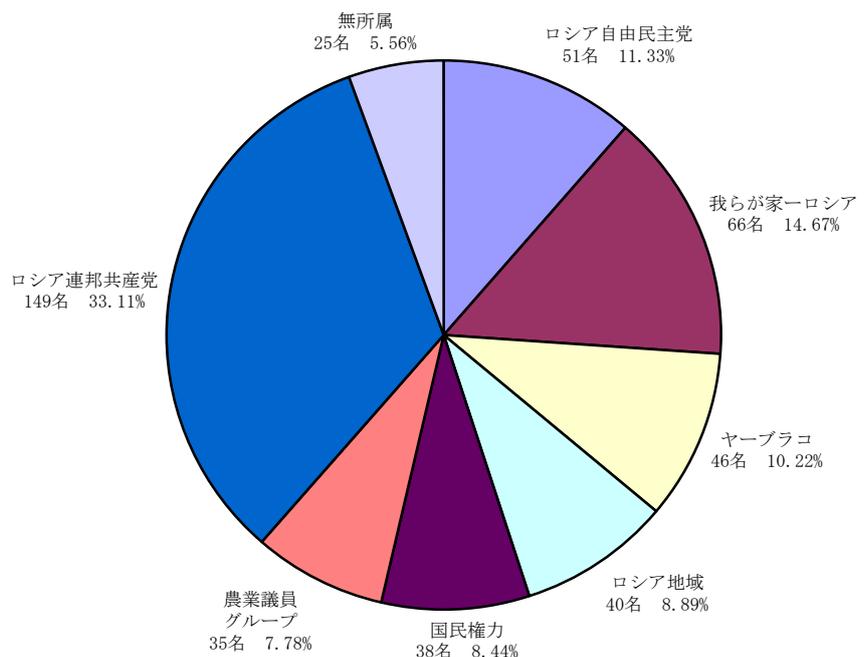
表4 各党支持者の社会統計的調査

(単位：%)

		ロシア連邦共産党	ロシア自由民主党	我が家ーロシア	ヤーブラコ
年齢	18-25歳	5	10	9	15
	25-39歳	14	30	29	33
	40-54歳	32	33	31	28
	55歳以上	49	26	31	25
教育	大学	10	4	19	30
	中等教育	38	44	53	45
	中等教育以下	50	51	28	25
職業	企業家	1	2	3	4
	専門家	8	4	15	21
	労働者	29	48	23	22
	年金生活者	46	23	32	20
居住地	モスクワ	4	2	7	13
	大都市	36	27	45	46
	小都市	32	36	28	46
	農村	32	37	27	15

出典：Известия, 11 января 1996г., с.2. この資料は、全ロシア世論調査センター(ВЦИОМ)が1995年12月下旬に実施した1600人を対象とする世論調査にもとづくものという。

図2 1996~99年国家会議会派構成



⁹ Выборы..., указ., с. 157-162.

出典：Выборы депутатов Государственной Думы. 1995. Электоральная статистика. М., 1996, с. 205.

ロシア自由民主党は、1993年の国家会議議員選挙でも単独議席選挙区ではあまりふるわなかったとはいえ、それでも5名の当選者を出していたのであるから、1995年の単独議席選挙区は惨敗だったと言ってよい。

結論的に言えば、1995年の選挙は、すでに述べたように「中道派」の弱体化により、「右派」（政権支持派）と「左派」（反対派）の両極分化を押し進めたが、これはまた、地域的には、大都市地域と保守的「田舎」との分極化（これは、ある程度までは北の都市と南の農村の分極化とも言える）を背景としており、さらには世論調査によって明らかのように、社会構成的には、比較的若い年齢層と高齢者との分極化、高学歴者とそうでない者との分極化、高所得者層と低所得者層との分極化を背景としている（表4）。

6.2.4. 選挙団体別および院内会派・議員グループ別の議席配分

連邦選挙区では、得票率5%を超えた「我らが家—ロシア」、「ヤーブラコ」、「ロシア連邦共産党」、「ロシア自由民主党（JDPP）」の4党に連邦選挙区の225議席が配分された。単独議席選挙区での議席とあわせると、表3に見るように、民族派は58議席（12.89%）を、また、与党を含む右派は119議席（26.44%）を獲得した。それに対し、「中道派」はわずか9議席（2.00%）を獲得したに過ぎなかった。他方、ロシア連邦共産党を中心に、ロシア農業党などを加えた左派は、全体で187議席（41.56%）を獲得した。しかし、得票率では、民族派は18.08%、右派は26.78%、中道派は15.66%、左派は34.79%をそれぞれ獲得した。したがって、左派は得票率をかなり上回る議席を、右派はほぼ得票率に見合った議席をそれぞれ獲得したのに対し、民族派およびとくに中道派は得票率に比べて獲得できた議席がかなり少ないことがわかる。

しかしながら、議会では院内会派・議員グループが結成され、この院内会派・議員グループをもとに議会運営が行なわれるので、院内会派・議員グループ別議席数が重要である。院内会派は、連邦選挙区で議席を獲得した選挙団体を中心にして結成され、その他の選挙団体から立候補した議員あるいは無所属議員は議員グループを結成する。1996年1月に開会した国家会議において結成された院内会派および議員グループ、ならびにそれらの所属議員数は図2のとおりである。図2では、表3に比べて、ロシア連邦共産党が8議席減少していること、「我らが家—ロシア」が11議席、「ヤーブラコ」が1議席、それぞれ増加していることがわかる。また、新たに結成された議員グループは、「ロシア地域」、「国民権力」、農業議員グループの3グループである。

6.3. 1999年12月19日の国家会議議員選挙の結果

6.3.1. 投票率

投票率は、表1に示すように61.85%であった。この数字は、前回の1995年の第2回国家会議議員選挙に比べやや低下したが、1993年の第1回国家会議議員選挙のときほど低くはない。ソ連時代のソヴィエト選挙の投票がいわば国民の義務であった時代に生きてきた世代が少しずつ減少していくなかで、政治的アパシーやシニズムが広がっていくとすれば、60%程度の投票率を維持していくことは、行政側にとって重要な課題と言えよう。

6.3.2. 連邦選挙区の議席配分

連邦選挙区の結果は表5のとおりであった。この結果、得票率が5%を超えた「ヤーブラコ」、「統一」、「ジリノフ

表5 1999年国家会議議員選挙連邦選挙区結果

選挙団体・選挙ブロック名	連邦選挙区得票数	%	連邦選挙区議員数	単独議席選挙区議員数	合計	%
「ジリノフスキー・ブロック」	3,989,932	6.10	17		17	3.78
ロシア全国民同盟	245,266	0.38		2	2	0.44
その他の民族派	87,658	0.13				
民族派合計	4,322,856	6.61	17	2	19	4.22
「統一（メドヴェージェ）」	15,548,707	23.79	64	8	72	16.00
右派勢力同盟	5,676,982	8.68	24	5	29	6.44
ヤーブラコ	3,955,457	6.05	16	4	20	4.44
「我らが家—ロシア」	791,160	1.21		7	7	1.56
右派合計	25,972,306	39.73	104	24	128	28.44
「祖国—全ロシア」	8,886,697	13.59	37	30	67	14.89
「アンドレイ・ニコラエフ将軍+科学アカデミー会員スヴァトスラフ・フォードロフ」ブロック	371,959	0.57		1	1	0.22
「ロシア人共同体会議+ユーリー・ボルドゥィレフの運動」ブロック	405,295	0.62		1	1	0.22
年金生活者党	1,298,948	1.99		1	1	0.22
ロシア社会党（RSP）	156,735	0.24		1	1	0.22
その他の中道派	2,778,410	4.26				
中道派合計	13,898,044	21.27	37	34	71	15.78
ロシア連邦共産党	16,195,569	24.77	67	46	113	25.11
「軍支持」運動	384,392	0.59		2	2	0.44
精神的遺産	67,417	0.10		1	1	0.22
その他の左派	2,331,404	3.57				
左派合計	18,978,782	29.03	67	49	116	25.78
すべての候補者名簿に反対	2,198,667	3.36				
選挙人による指名				107	107	23.78
有効投票総数	63,171,988	96.64				
無効投票	2,198,667	3.36				
投票総数	65,370,655	100				
選出議員総数			225	216	441	98.00
欠員			0	9	9	98.00
議席総数			225	225	450	98.00

注：「ジリノフスキー・ブロック」は、前回は「ロシア自由民主党」である。なお、カッコ内の数字は前回の1995年12月の選挙のときのもの。

出典：Вестник ЦИК, 1999, No. 23, c. 97-98. ただし、「すべての連邦候補者名簿に反対」を除いて算出した比率（%）は筆者による。

スキー・ブロック)、「祖国—全ロシア」、ロシア連邦共産党、右派勢力同盟の6選挙団体・選挙ブロックに連邦選挙区の225議席が配分されることになった。得票率5%以上の6選挙団体・選挙ブロックに議席が配分された。

6.3.3. 単独議席選挙区の結果

1999年国会議員選挙における単独議席選挙区の区割は、1999年9月4日付けロシア連邦中央選挙委員会決定¹⁰により、1995年の国会議員選挙における単独議席選挙区の区割り、すなわち1995年8月17日付け「第2回ロシア連邦・連邦議会国会議員選挙の実施のための単独議席選挙区の区割りの承認についてのロシア連邦法」付属文書第1号¹¹によって定められた選挙区の区割りをそのまま踏襲することになった¹²。

さて、連邦選挙区と単独議席選挙区選挙団体・選挙ブロック別議席数は表5のとおりである。ただし、単独議席選挙区当選者については、無所属候補(「1999年国会議員選挙法」の定義に従えば「選挙人による推薦候補」または「自薦候補」)として立候補しているが、実際にはロシア連邦共産党の党員であるといったような例もあって、中央選挙委員会の公式発表だけから、当選者の選挙団体・選挙ブロックの所属や本当に無所属であるかを特定することは困難で、ロシア側の報道に頼らざるを得ない。したがって、表5の単独議席選挙区選挙団体・選挙ブロック別当選者数はあくまでも非公式のものである。

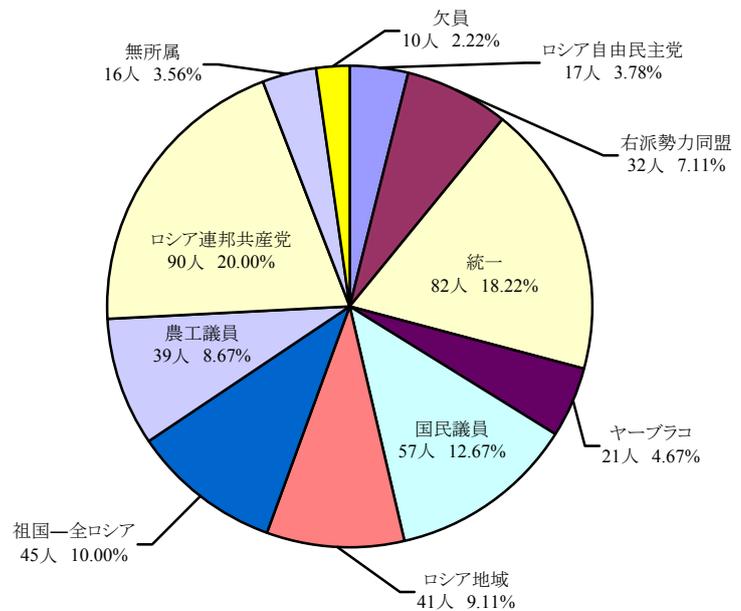
6.3.4. 院内会派および議員グループ別の議席配分

国会議では、連邦選挙区で議席を獲得した選挙団体・選挙ブロックを中心にした院内会派と、それら院内会派に属さない諸派および無所属議員たちを中心にして35名以上の議員からなる議員グループがつくられ、これら院内会派および議員グループを中心にして議事運営が行われるので、実際には、院内会派・議員グループの構成員数を見るのが重要である。表5と、院内会派・議員グループ別議員数¹³の図3を比較してみると、その違いがよくわかる。

右派勢力同盟が4名、「統一」が10名、「ヤープラコ」が1名、選挙団体・選挙ブロック別議員数のグラフに比べて院内会派・議員グループ別議員数のグラフでそれぞれ増加しているのは、選挙後、院内会派の結成に際して無所属議員等が加入したためである。他方、「祖国—全ロシア」が22名、ロシア連邦共産党が23名減っているのは、選挙時にそれぞれの選挙団体・選挙ブロックから立候補したものの、院内会派の結成に際しては、それらの院内会派には加わずに、主としてロシア農業党系議員が農工議員グループを結成し、残りの若干名も他の議員グループに所属したためである。また、国民議員グループ、ロシア地域は、諸派および無所属議員等を中心にして結成されたはた非々主義の中間派的議員グループである。こうしてみると、院内会派結成に際して10名も勢力を増大させた「統一」には政権与党としての求心力があるということなのであろう。

いずれにせよ、ロシア連邦共産党の議席数の減少によって、国会議と大統領・政府との対立はかなり緩和され、プーチン政権は、エリツィン政権に比べれば、かなり安定した政局運営が可能となった。

図3 2000～03年国会議員会派構成



6.4. 1993年、1995年、1999年の国会議員選挙連邦選挙区の結果の比較

1993年、1995年、1999年の3回にわたる国会議員選挙に参加している選挙団体・選挙ブロックには、表6および図4に見るように、ロシア自由民主党(1999年は「ジリノフスキー・ブロック」)、「ヤープラコ」(1993年は「ヤプリンスキー・ボルドゥィレフ・ルキーン・ブロック」)、「ロシアの女性」、ロシア連邦共産党など、4選挙団体があるに過ぎない。したがって、3回の選挙の比較は単純にはできないが、1つの方法としては、前述したように、民族派、右派(改革派)、中道派、左派といった政治的傾向ごとに選挙団体・選挙ブロックを類型化して、それぞれの傾向別の合計得票率の増減を見るという方法がある(図5)。

さて、表6について、まずは有効投票数を見ると、1993年が非常に少なく、1995年に1,400万票以上の増加があることがわかる。したがって、1993年から1995年を見たとき、各政治的傾向および各選挙団体・選挙ブロックの得票数の増減は、有効投票総数の大幅な増加を見ておかないと、正しい判断ができないことになる。たとえば、1995年の選挙後、全体として右派(当時「民主派」ないし「改革派」と言われていた)の票が微増していることを取り上げて、「民主派は決して敗北してはいない」という評価をロシアの一

¹⁰ Вестник ЦИК, 1999, No. 9, c. 127.

¹¹ Собрание законодательства, No. 34, 21 августа 1995г., Ст. 3425. また、新聞では、Российская газета, 22 августа 1995г., c. 2-8に掲載された。

¹² そのため、1995年国会議員選挙単独議席選挙区の区割りがРоссийская газета, 10 сентября 1999г., c. 2-7に再掲載された。

¹³ See, http://www.fci.ru/gd99/spiski/ZAR_F213/; http://www.akdi.ru/gd/PLAN_Z/2000/18-01_d.htm; http://www.akdi.ru/gd/PLAN_Z/2000/19-01_d.htm; <http://www.duma.gov.ru/deputats/fraction.htm> なお、欠員のうち9議席は、チェチヤ共和国選挙区を含めて選挙不成立によるものであり、1議席は当選後、ゲンナジー・ルジン議員(国民議員グループ所属)が交通事故で死亡したためによる。

部の評論家がしていたが、それは敗北を目立たなくさせようとする言い訳に過ぎないことは明らかである。1995年の選挙は、明らかに、民族派、右派、中道派が、いずれも敗北し、ロシア連邦共産党が大躍進して、左派の圧勝に終わったのである。

民族派は、1999年でも大きく得票を減らし惨敗した。民族派の中核であるロシア自由民主党が顕著な低落傾向にあるからである。

右派は1995年の得票率での落ち込みを1999年で大きく挽回した。むしろ、「統一」の躍進に負うところが大きい。右派勢力同盟の5%突破は、1993年の「ロシアの選択」の数字には及ばなかったものの、1995年の選挙の際に分散してしまった右派票を手堅くまとめ、若干の「ヤーブラコ」票を奪った結果であって、「統一」以外の右派は、決して復調傾向にはない。そこで、そもそも「統一」を右派に入れるべきではないという意見も出て来るであろう。確かに「統一」は民族派的性格もあり、また中道派的性格も併せ持っている。しかし、筆者は、「統一」は、1995年の「我らが家—ロシア」と同様に、明らかに政権与党と見なされていたことから、「右派」に入れることにした。

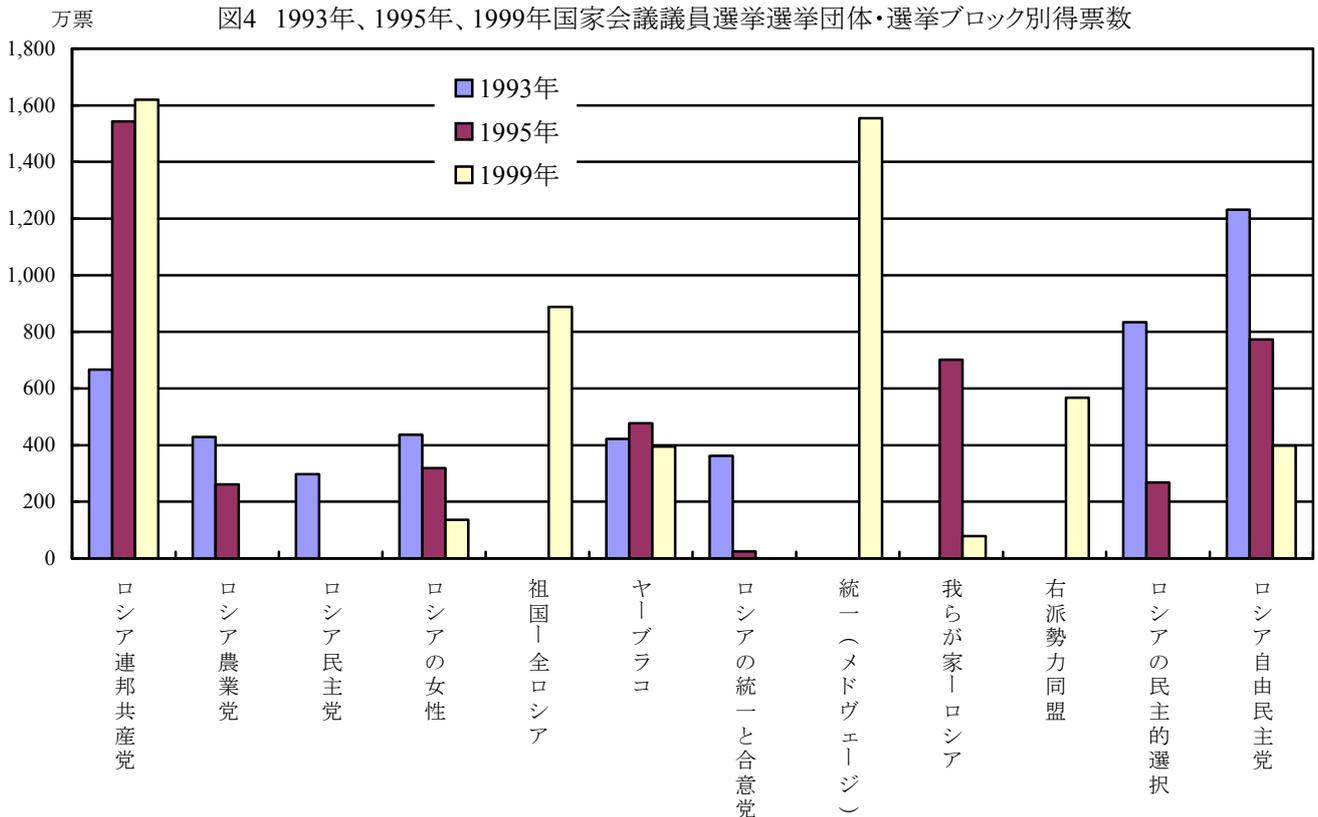
中道派は、1995年で得票率がやや落ち込んだが、1999年ではやや増加した。しかし、全体的にはドラスティックな変化がな

表6 1993年、1995年、1999年国家会議連邦選挙区得票数比較

	1993年		1995年		1999年	
	得票数	%	得票数	%	得票数	%
ロシア自由民主党	12,318,562	22.92	7,737,431	11.40	3,989,932	6.21
その他の民族派			4,777,285	7.04	357,596	0.56
民族派合計	12,318,562	22.92	12,514,716	18.44	4,347,528	6.77
統一（メドヴェージェ）					15,548,707	24.20
右派勢力同盟					5,676,982	8.84
ヤーブラコ	4,223,219	7.86	4,767,384	7.02	3,955,457	6.16
我らが家—ロシア			7,009,291	10.33	791,160	1.23
ロシアの民主的選択	8,339,345	15.51	2,674,084	3.94		
ロシアの統一と合意党	3,620,035	6.73	245,977	0.36		
その他の右派	2,191,505	1.07	6,759,035	9.95	1,194,016	1.86
右派合計	18,374,104	34.18	18,535,710	27.30	26,375,162	41.05
祖国—全ロシア					8,886,697	13.83
ロシアの女性	4,369,918	8.13	3,188,813	4.70	1,359,042	2.12
ロシア民主党	2,969,533	5.52				
その他の中道派	2,492,696	4.64	7,649,208	11.27	3,912,053	6.09
中道派合計	9,832,147	18.29	10,838,021	15.97	12,798,750	19.92
ロシア連邦共産党	6,666,402	12.40	15,432,963	22.73	16,195,569	25.21
ロシア農業党	4,292,518	7.99	2,613,127	3.85		
その他の左派			8,644,639	12.74	2,338,086	3.63
左派合計	10,958,920	20.39	24,077,602	35.47	18,533,655	28.84
すべての候補者名簿に反対	2,267,963	4.22	1,918,151	2.83	2,198,667	3.42
有効投票総数	53,751,696	100	67,884,200	100	64,253,762	100

注：なお、選挙団体名については、「ヤーブラコ」は1993年には「ヤプリンスキー=ボルドゥイレフ=ホルキーン・ブロック」、「ロシアの民主的選択」は1995年には「ロシアの選択—統一民主派」、「ロシア自由民主党」は1999年には「ジリノフスキー・ブロック」であった。

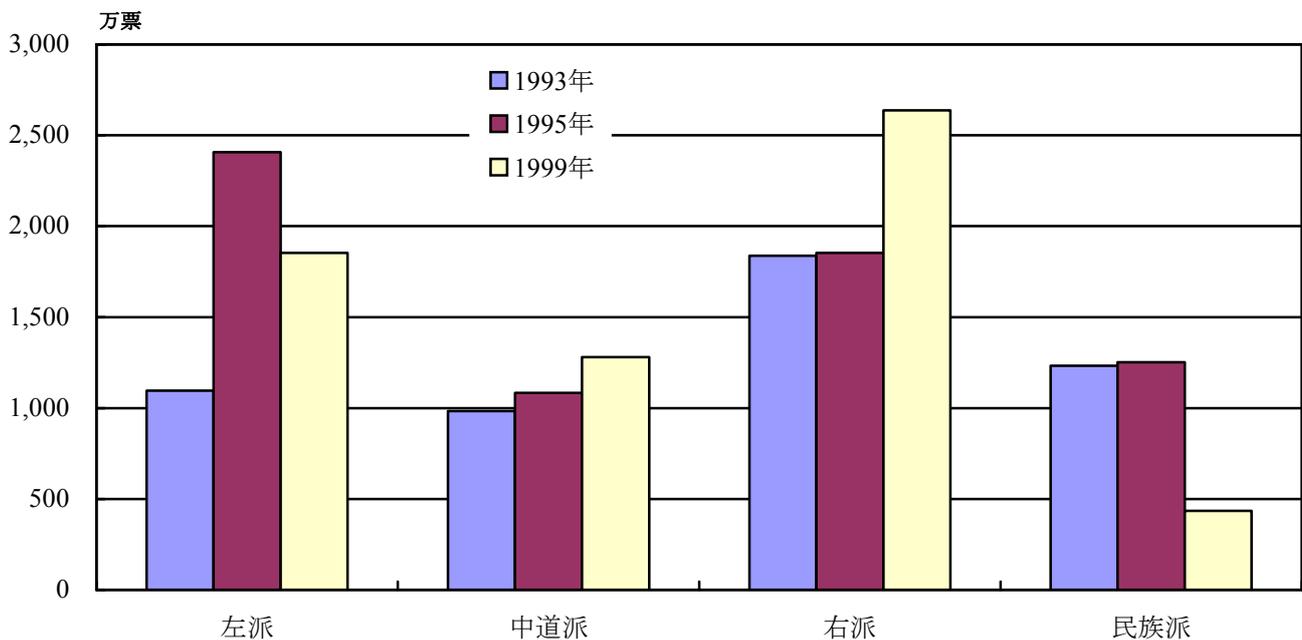
出典：Бюллетень ЦИК, 1994, No. 1, c. 67.; Вестник ЦИК, 1996, No.1, c. 49-51.; Вестник ЦИК, 1999, No. 23, c. 97-98.
なお、有効投票総数を得票率の算定基準とした。



かったように見える。しかし、もちろん、内実は、「祖国—全ロシア」という新しいブロックの出現によって、大きく変わった。1993年限りに終わったロシア民主党や低落傾向にある「ロシアの女性」に代わって、初めてまとまった勢力を持った中道派が登場したと言える。「統一」を中道右派、「祖国—全ロシア」を中道左派として、前者は民族派と右派の票を吸収し、後者は左派の票を吸収したと見ることもできる。

しかし、ロシア連邦共産党は、1999年で得票数、得票率ともに微増している。しかし、それは、1995年選出の国家会議で「農業議員グループ」に所属していたロシア農業党系の議員が、1999年の選挙では、二手に別れて、ロシア連邦共産党と「祖国—全ロシア」に加わって選挙に参加したからである。したがって、ロシア連邦共産党と「祖国—全ロシア」の票には、農業党系議員支持票が含まれており、実際には、ロシア連邦共産党はやや得票を減らしたと考えるべきであろう。いずれにせよ、ロシア連邦共産党が今後とも安定した勢力を維持していくのか、あるいは、場合によっては大統領選挙に勝利するに至るまで勢力を拡大するのか、それとも長期低落傾向に入っていくのか、同党の今後の動向が注目される。1999年の結果を見る限りでは、ロシア連邦共産党が現在の路線を維持していくならば、その勢力拡大の可能性はあまりなく、むしろ長期低落傾向に入っていく可能性があるように思われる。したがって、若手ニューリーダーの育成や、中道左派路線への接近などの新路線を模索していかない限り、その党勢を維持・拡大していくのは困難なように思われる。

図5 1993年、1995年、1999年国家会議選挙政治傾向別得票数



6.5. ロシアの選挙民主主義

ロシア連邦は、以上に見てきたように、1993年12月以降、3回の国家会議議員選挙を実施してきた。選挙の実施に関してまったく問題がなかったわけではないが、選挙のプロセスはおおむね公正に進められてきたと言える。筆者は、連邦議会および連邦大統領選挙に際して国際選挙監視員として、選挙の実施・運営について、直接、現地調査を実施してきたが、その経験からも、ロシアの選挙がおおむね公正に実施されてきていると判断している。もちろん、大統領・政府によるマスコミへの影響力の行使が顕著であり、国民の側にも浮動票が多く、そうしたマスコミを通じた操作の影響を受けやすいなどのさまざまな問題があることも確かである。しかし他方で、ロシア連邦中央選挙委員会の刊行資料およびインターネットのホームページによるデータの提供による選挙関連情報の公開度は、ソ連時代に比べれば比較にならないほど格段に進んでおり、1993年以降も年々その公開度は高まっており、今や、選挙情報の公開に関しては世界でも最も進んでいる国の一つであると思われる。また選挙に関連する全国規模の世論調査もしばしば行われるようになり、その確度も飛躍的に向上している。

こうした状況の中で、ソ連時代、長く民主的な競争選挙の経験を持たなかったロシア国民が、この過去10年ほどのあいだに、ともかくも民主的な選挙を通じて政治指導者や政策を自分自身の手で選択するという経験を着実に積んできた。連邦中央における大統領・政府と議会とのあいだの対立と妥協の模索に際しての「手続き的民主主義」が確立しつつあるというのと同様の意味で、国民が投票行動を通じて政治指導者や政策に影響を与えるという「手続き的民主主義」、すなわち筆者がここで言うところの「選挙民主主義」もまたロシアにおいて確立しつつあると断言できよう。